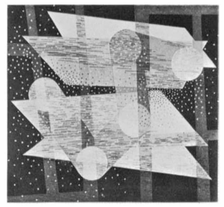
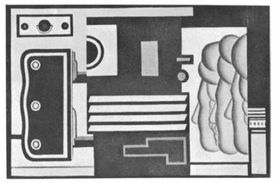
Literal and Phenomenal

【 Literal 】*ADJECTIVE*
1 . Taking words in their usual or most basic sense without metaphor or exaggeration.
‘ dreadful in its literal sense, full of dread ’ 1 . 1 Free from exaggeration or distortion. *‘ you shouldn't take this as a literal record of events ’* 1 . 2 informal Absolute (used to emphasize that a strong expression is deliberately chosen to convey one's feelings) *‘ fifteen years of literal hell ‘*
2 . (of a translation) representing the exact words of the original text. *‘ a literal translation from the Spanish ’* 2.1 (of a visual representation) exactly copied; realistic as opposed to abstract or impressionistic.
3 . (of a person or performance) lacking imagination; prosaic. *‘ his interpretation was rather too literal ’*
4 . Of, in, or expressed by a letter or the letters of the alphabet. *‘ literal mnemonics ‘*

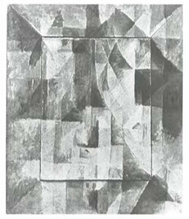
【 Phenomenal 】*ADJECTIVE*
1 . Remarkable or exceptional, especially exceptionally good ; extraordinary ; outstanding *‘ the town expanded at a phenomenal rate ‘*
2 . Perceptible by the senses or through immediate experience. *‘ the phenomenal world ‘*
3 . [philosophy] known or perceived by the senses rather than the mind.



‘ La Sarraz ‘
Laszio Moholy-Nagy , 1930

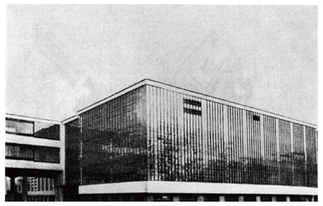


‘ Three Faces ‘
Fernand Leder , 1926

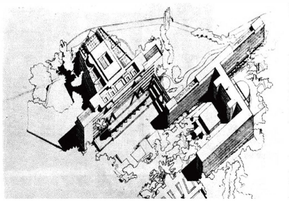


‘ Simultaneous Wimdows ‘
Robert Delaunay, 1911

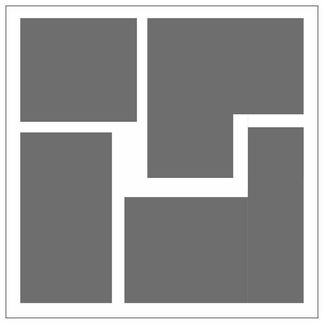
‘Still Life’
Juan Gris, 1912



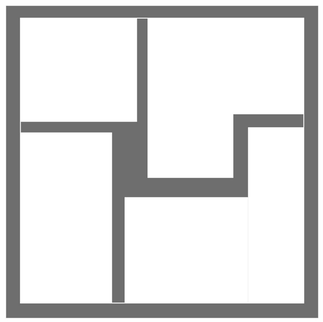
‘ Bauhaus ‘
Dessau, Walter Gropius, 1925 - 26



‘ Palace of the League of Nations ‘
Geneva, Le Corbusier, 1927



Literal

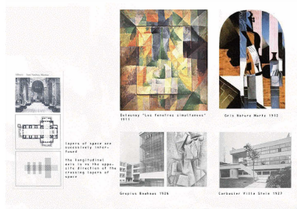


Phenomenal

Ⅰ　透明性 - 実と虚 -

コーリン・ロウ『 近代建築とマニエスリム 』より

建築史家、建築家コーリン・ロウが 1963 年に画家、建築理論家ロバート・スラツキーと発表した論文「透明性　実と虚」は、建築の分析とデザインの手法において後世に大きな影響を与えた。この論文で二人は、パブロ・ピカソ、ジョルジュ・ブラックの 1911 年の作品に見られるキュビスムの絵画の分析から論を展開し、透明性を二種類に区別し、実の（リテラルな）透明性と虚の（フェノメナルな）透明性と命名した。実の透明性とは、ガラスに代表される物質的な素材に表われるものであり、その例としてヴァルター・グロピウスによるデッサウの《バウハウス校舎》(1926) を挙げている。建築史家ジークフリート・ギーディオンは近代建築の特徴として内部と外部の相互貫入、すなわち視線が抜けることを指摘し、そうした効果をもつガラスなどのリテラルな透明性を評価した。一方、虚の透明性とは現象としての透明性であり、概念的なものである。ファサードの面に複数の格子や構成の層が重なり合うことによって、事後的に透明な空間が立ち上がることを指す。ロウは、ル・コルビュジエのプロジェクトなどにそうした傾向を見出すが、後に古典主義のマニエリスムにおける複雑なファサードの操作にも同様な指摘を行なう。ロウは二種類の透明性を指摘することで、ギーディオンによって示されたモダニズムの概念を乗り越えようとし、世に空間の多層性、多義性について考える契機を与えた。



Ⅱ　都市の中の ‘ 実と虚 ’

【 Literal 】

目に見えるもの。
見たまま、ありのままのもの。

高層のオフィスビル。
都市を利用する大勢の人々のために作られる、効率を重視したもの。

Literal

社会の大多数の人々。
オフィス街で働く人々。時計の針が進む速度にしたがって生活している。

【 Phenomenal 】

視点を変える事で浮かび上がるもの。
目に見えるものが重なり合って
事後的に立ち上がるもの。

オフィス街の隙間。
オフィスビルを建てることで出来た副産物。誰も気に留めず、その前を通り過ぎて行く空間。

Phenomenal

少数派、マイノリティと呼ばれる人々。
自分が持つ時間のスピードの中で生きている人々。はっきりと目には見えないが、『 実に生きる人 』と比較すると浮かび上がってくるもの。

Ⅲ　脚本家 坂元裕二

坂元裕二の脚本は‘ほんの少し生きづらい人たち’を多く描いている。そういった人々の強烈な個性や人間らしさを捉え丁寧に描くことで、他の脚本にはない少し風変わりで魅力的な作品が生まれる。

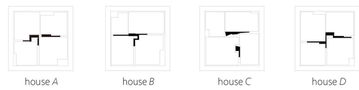
『　テレビドラマは何百万人、何千万人もの人が見るものです。でも僕は、全然そこに向けては書いていなくて。多数派か少数派かっていったら、少数派のために書きたい。「こんなふうに思っているのは私だけなのかな？」と思っている人のために書きたいんです。誰にも相談できず、理解してもらえるとも思えず、漠然と「こんな気持ちは自分しか持っていないんだろうな」と一人で考えている人のことを探して回っている感じがあって。10 元気な人が 100 元気になるための作品はたぶんたくさんあるけど、僕は、マイナスにいる人がせめてゼロになる、マイナス 5 がマイナス 3 ぐらいになるとか、そこを目指しているから。そうするとおのずと少数派になっていくし、世の中の大きな意見とちょっと異なってくるのかなという気はします。それで世の中を変えようなんて全く思っていない。でも、そんなお客さんの中の一人に「ああ、こう思ってもいいんだ」とホッとしてもらえたら、それが何よりもうれしい。』

坂元裕二（さかもとゆうじ）
1967 年生まれ。大阪府出身。1987 年、第 1 回フジテレビヤングシナリオ大賞受賞。1989 年、「同・級・生」で連続ドラマの脚本家としてデビュー。主なテレビドラマ作品に、フジテレビ系「東京ラブストーリー」、「わたしたちの教科書」（第 26 回向田邦子賞）、「それでも、生きてゆく」（芸術選奨新人賞）、「最高の離婚」、「問題のあるレストラン」、「いつかこの恋を思い出してきっと泣いてしまう」、TBS 系「カルテット」（芸術選奨文部科学大臣賞）、日本テレビ系「Mother」（第 19 回橋田賞）、「Woman」、「anone」など。

Ⅳ　プログラム

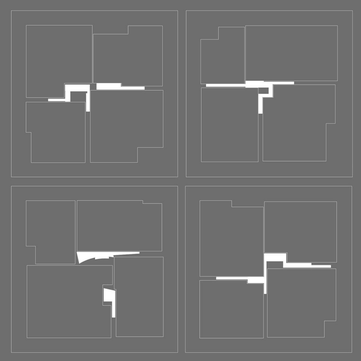
- 脚本家 坂元裕二が描く、都市に暮らす’虚の人’の人物像を 4 つ抽出する。

- とあるオフィス街のビルとビルの隙間に4人のための邸宅を作る。
- 坂元裕二の言葉によって各登場人物に与えられたエピソードや、彼らの一日の生活習慣に合わせて設計する。



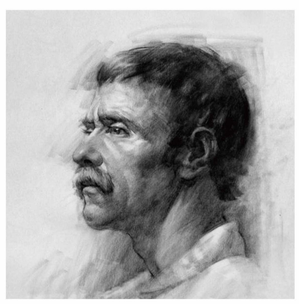
この作品は、現実的なオフィス街に建つビルとビルの隙間を縫って個人住宅を建てるという、
現実と非現実の狭間に存在するものである。

虚構の世界として、現代社会の少数派・マイノリティの力強さを表現する作品であり、
もし現実に存在するとすれば、
このオフィス街を利用する人にとって心理的に時間の流れを緩める装置となる。



Literal and Phenomenal

house *D*



口下手なあなた

職業：物理学者

人の話を聞くのは好きだが、自分から何か話を始めることはまず無い。出来るだけ喋りたくないと心底思っている。何か言われても「はい」「いいえ」「なるほど」で返すことがほとんどで、全く話が盛り上がらずに会話が終了。人に声を掛けて頼みごとをしたりするのが苦手。飲食店などで注文するためにウェイターを呼び止めるのにさえ苦労する。

concept

生活の場と研究室を細長い通路でつなぐ。全く外部と接触せずに一日を終えられる。

人が多く集まる事ができるような大空間が苦手。高さ約十メートルの壁で空間を細分化し、人ひとりが通れるギリギリの幅の空間を作る。

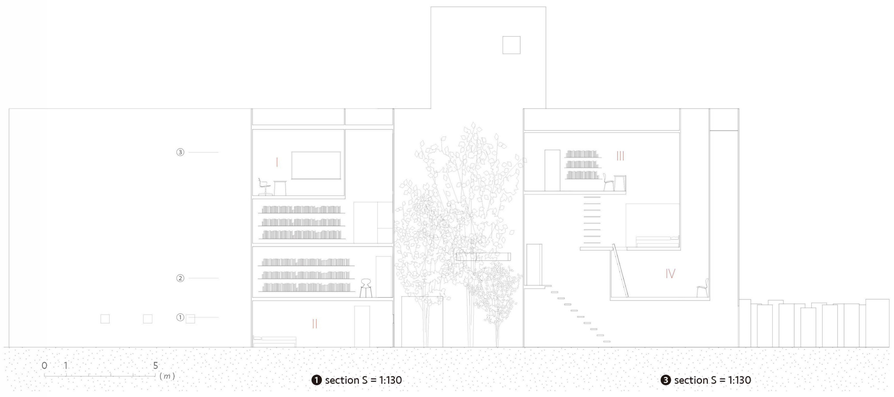
texture : rusted copper plate

錆びた銅板

・外の景色を完全に遮断する。ソリッド・堅固・硬質な印象。外とのつながりを断ち、自分の世界に入り込むことが出来る。

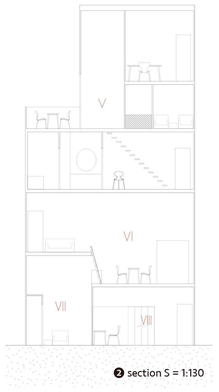
・内側は暗く、小窓からの光が鮮やかに投射される。自分の足音がかすかに響いて聞こえる。

研究室から居住棟へ向かう通路。小窓から中庭を見る。



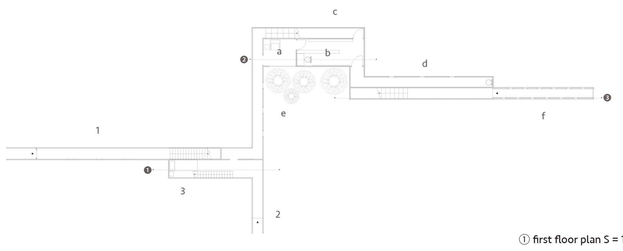
❶ section S = 1:130

❸ section S = 1:130

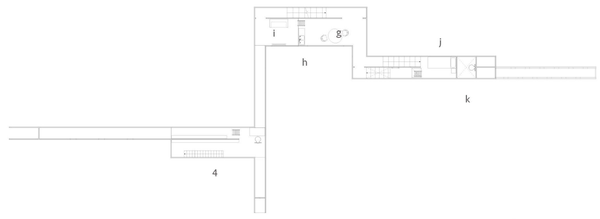


❷ section S = 1:130

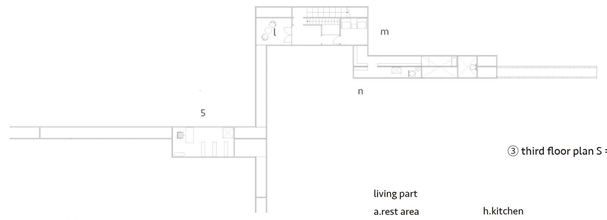
I）研究室。下階には専門書がたくさん並ぶ。　II）昼食を食べたあと研究室棟に戻り、ここで昼寝をする。　III）一日の終わりに書斎で日記をつける。　IV）考え事をする場所。空が切り取られて見える。　V）外のテラスに接続するホール。　VI）ダイニングルーム。午前の研究が終わるとここで昼食をとる。　VII）中庭に面した部屋。　VIII）趣味の写真を現像する部屋。開口部がなく、暗さを確保できる。出来上がった写真はギャラリーに飾って楽しむ。



① first floor plan S = 1:200



② second floor plan S = 1:200



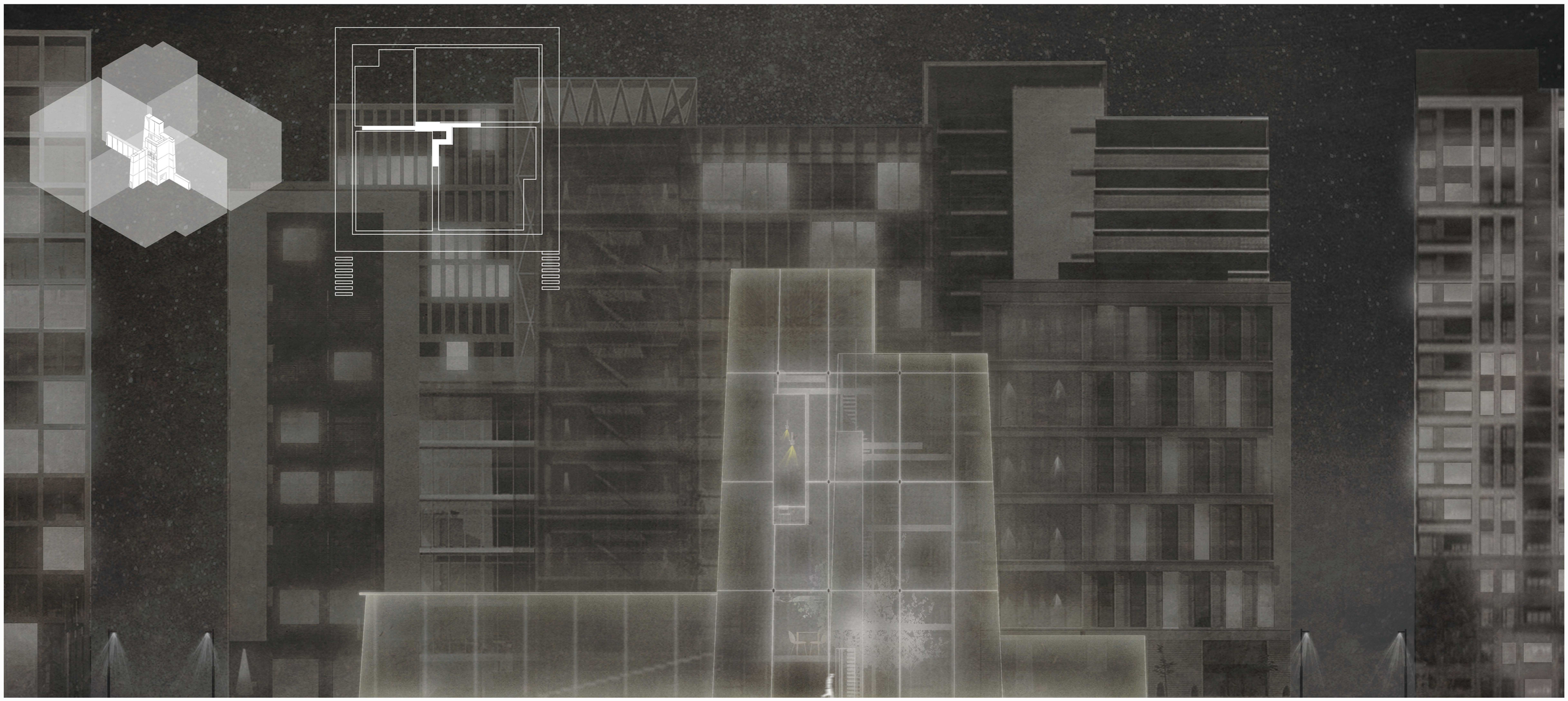
③ third floor plan S = 1:200

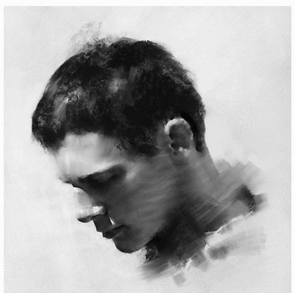
laboratory part
1.long passage
2.entrance
3.bed room for nap
4.library (academic books)
5.work room

living part

a.rest area	h.kitchen
b.photo darkroom	i.dining room
c.storage	j.bed room
d.photogragh gallery	k.place for thinking
e.courtyard	l.terrace
f.approach	m.home theatre room
g.living room	n.library (novels, poems)

house *B*





心配性なあなた

職業：俳優

極度の心配性。ネガティブ思考。引っ込み思案。そんな性格でなぜ俳優になったのかと言われるが、俳優として役に入り込むことで素のままの自分が守られると考えている。メディアを避け、自分に関する一切の批評を聞かないようにしている。もし批判されると異常なほど落ち込むし、逆に褒められたり何か賞を貰ったりしても、居心地が悪く、落ち着かない。

concept

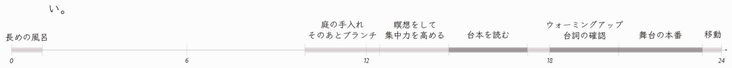
居住棟

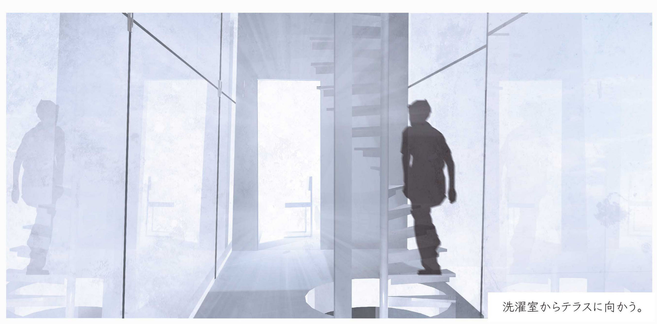
何よりも自分の私生活を大事にする。まとまった仕事場を作らず、安心してくつろげる場所とする。

普段から猫背で俯き加減。そのためどんどんマイナス思考になりがち。上に向かって壁を傾け、目線を上に向ける。

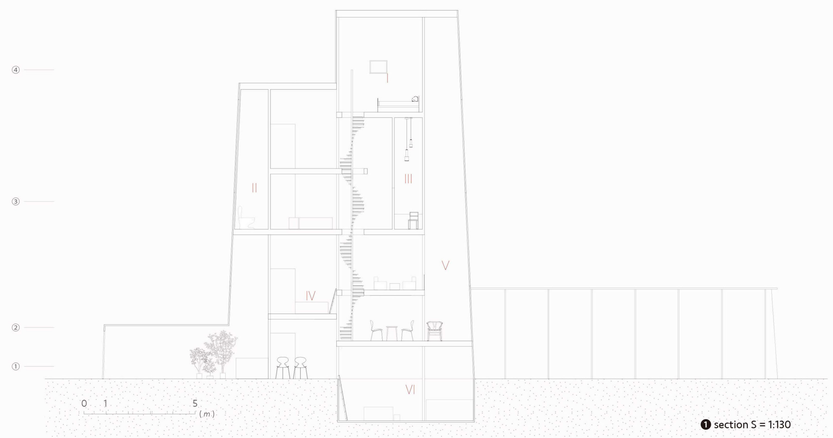
texture : white frosted glass

乳白色のすりガラス
外の景色にフィルターを掛けて和らげ、内側に透過させる。魚の鱗のような印象。外とのつながりを保ちつつ、内部のプライバシーを守る。内側の光がぼんやりと外に漏れ出す。



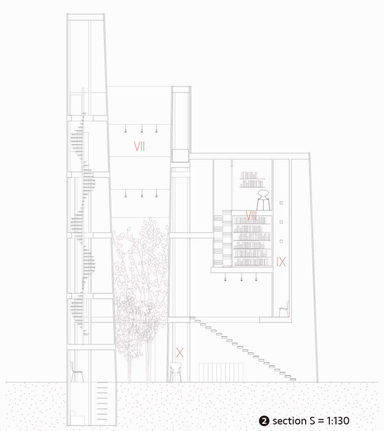


洗濯室からテラスに向かう。

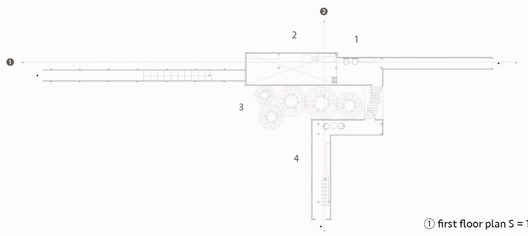


❶ section S = 1:130

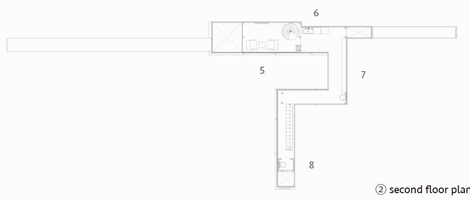
Ⅰ）安眠のため、最も出入り口から遠い場所に寝室を設ける。　Ⅱ）閉塞感を感じさせない二層吹き抜けのトイレ。　Ⅲ）外の様子を伺うためのベランダ。　Ⅳ）キッチン。奥にはたくさんの食料を収納するパントリーがある。　Ⅴ）エントランスホール。上部から光が落ちる。　Ⅵ）地下のスタジオ。閉塞的な空間で集中して本番に向けての練習を行う。　Ⅶ）中庭の方向のみに向かって開く渡り廊下。　Ⅷ）書庫と閲覧室。　Ⅸ）瞑想のための部屋。本番前などに心を落ち着かせるため使用する。　Ⅹ）小さなギャラリーと接続した空間。すりガラスを通して中庭からの光が差す。休憩する場所としてのほか、客間としての機能もある。
せば窮屈だ。



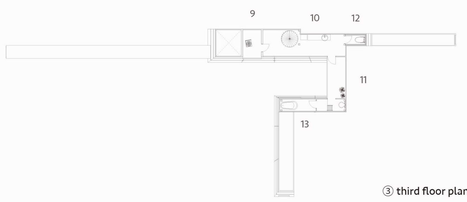
❷ section S = 1:130



① first floor plan S = 1:200



② second floor plan S = 1:200

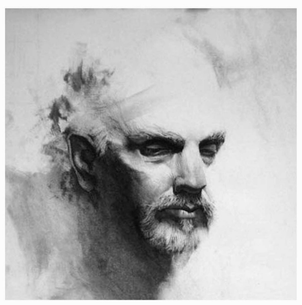


③ third floor plan S = 1:200

④ forth floor plan S = 1:200

1.entrance hall
2.studio
3.courtyard
4.small gallery
5.living room
6.kitchen
7.pantry
8.meditation space
9.veranda
10.washroom
11.corridor and drying place
12.toilet
13.bathroom
14.bed room

house C



マイペースなあなた

職業：ピアニスト

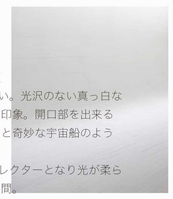
空気を読んだり、周りに合わせる事が出来ない。自分がどう見られるかに無頓着で、パジャマと外出着がほぼシームレス。演奏のスタイルが独特で風変わり。足を組んでピアノを弾く。ピアノを弾きながら歌を歌う。演奏中、空いた手で指揮をする。ピアノの椅子の高さに大きなこだわりがあり、曲の演奏前に念入りに調整をする。

concept

昼夜逆転の生活を送っている。いつでもピアノが弾けるよう、防音のため地下にピアノ室を設ける。

何かに縛られて行動したり、コントロールされる事が苦痛。全体を連続的・流動的な作りとし、規則に捉われない自由な線で構成する。

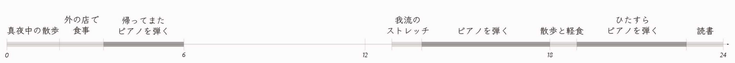
texture : stucco



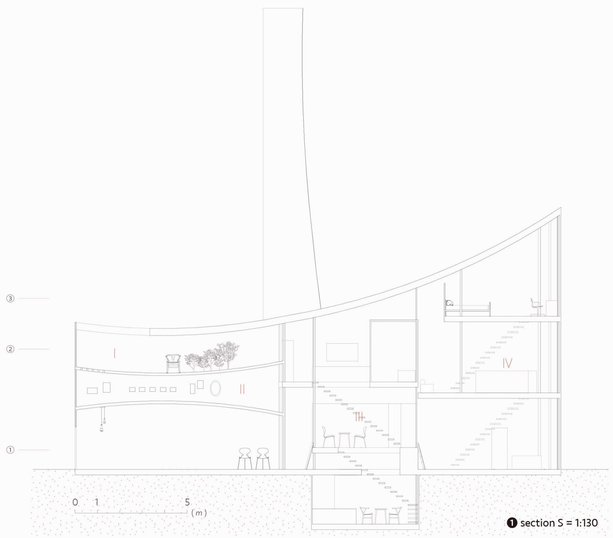
漆喰の白壁ー白色鉄板

・外の景色を透過しない。光沢のない真っ白な外壁で、浮遊感のある印象。開口部を出来るだけ抑え、外から見ると奇妙な宇宙船のようなファサード。

・内側は、白壁がリフレクターとなり光が柔らかく反射する豊かな空間。

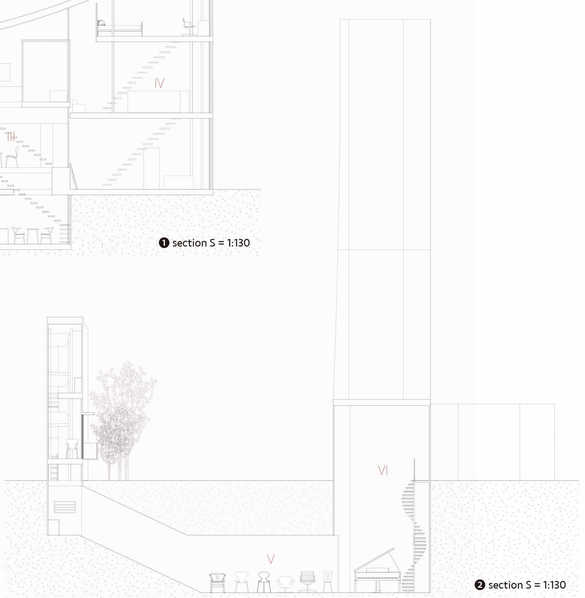


ダイニングルームからテラスを見る。

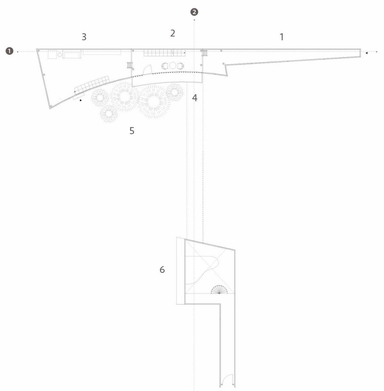


❶ section S = 1:130

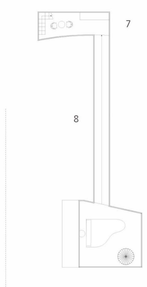
Ⅰ）テラス。小さな植物を育てたり、天気の良い日にはここに寝転がって空を見る。　Ⅱ）絵画ギャラリー。曲面の床と壁が、スリットから入る光を奥まで伝える。　Ⅲ）ダイニングスペース。中庭に面しており、ルーバーを通して光が差し込む。　Ⅳ）楽譜が並ぶ書庫。ここで楽曲の研究を行う。　Ⅴ）居住棟からピアノ室へと続く通路。演奏時の座面高さ調整のため、様々な椅子が並ぶ。北側にミニキッチンがあり、演奏に没頭したい時はここで簡易的な食事をとる。　Ⅵ）ピアノ室。塔のような形状で、演奏の音が上へと伝わる。



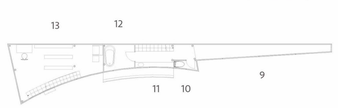
❷ section S = 1:130



① first floor plan S = 1:200



basement floor

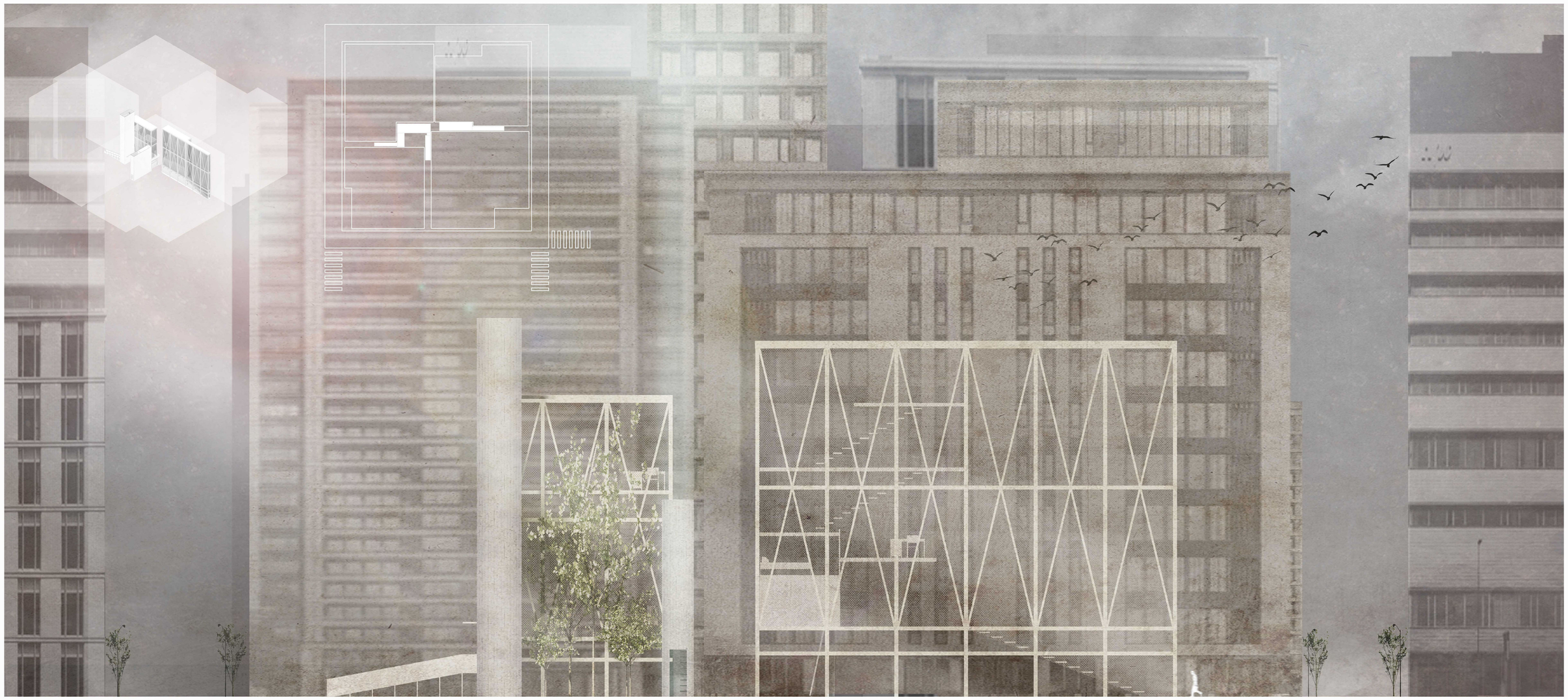


② second floor plan S = 1:200

③ third floor plan S = 1:200

1.entrance
2.dining room
3.living room
4.terrace
5.courtyard
6.grand piano
7.kitchen
8.passage
9.terrace
10.toilet
11.washroom
12.bathroom
13.library (musical score)
14.bed room

house *A*



神経質なあなた

職業：作家

他人が気にも留めないような些細なことに敏感である。メールの文章の句読点をどこに入れるか。半角と全角の使い分け。人の爪の形、ズボンの裾の丈などなど。そして絶望的に集中力がない。何か一つでも気になる点を見つけると、それが気になって他の事が手に付かない。そのため、何をするにも他人の５倍の時間がかかる。

concept

何かと周りが気になってしまう性格。生活の場と仕事場を完全に分離する。

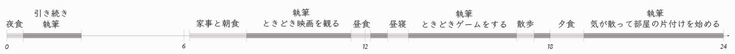
周りと自分を比べて劣等感を感じる事が多い。床を地上から持ち上げ、周りの人と目線を変える。

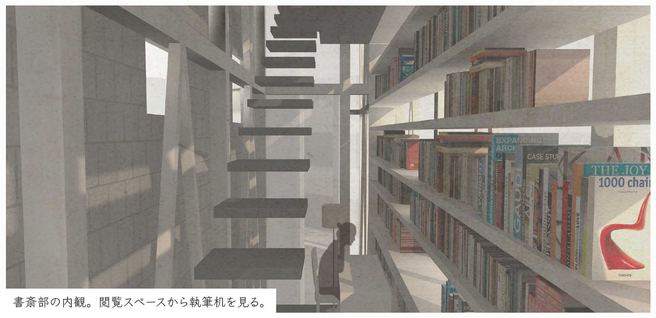
texture : wood / metalic mesh

細目の網ー木製の構造体ー粗目の網

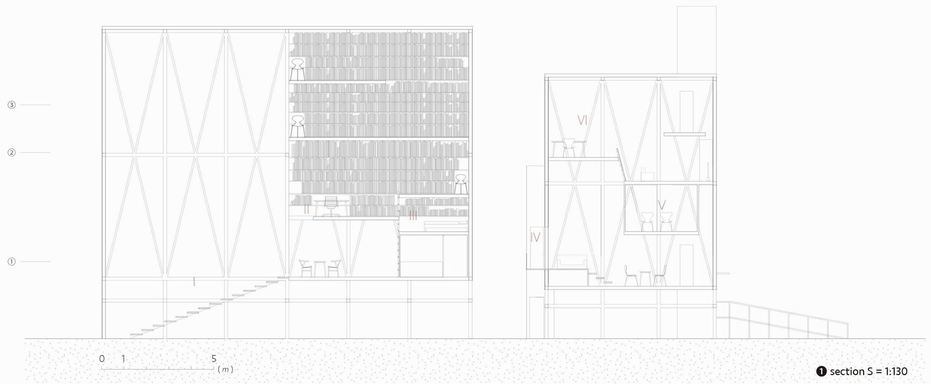
・外の景色に細かい網目を掛けて内側へ透過する。多層で、奥行きのある印象を与える。繊細で細やかなファサード。

・細かいサイズの目を用い、内側から見たときに小さいスケール感で周囲の風景を捉える。

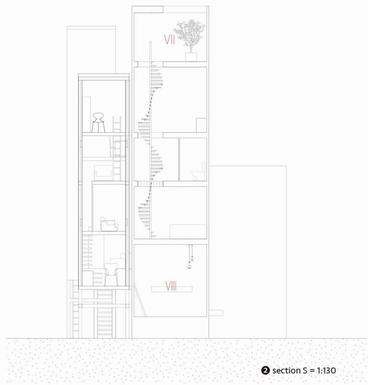




書斎部の内観。閲覧スペースから執筆机を見る。

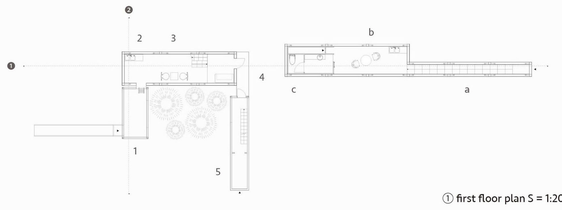


❶ section S = 1:130

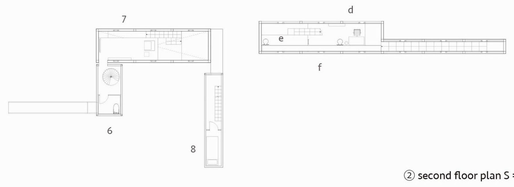


❷ section S = 1:130

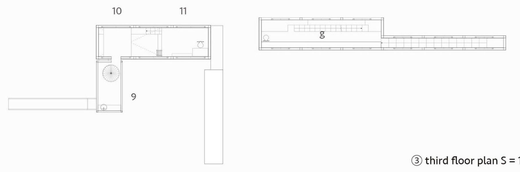
Ⅰ）書斎部エントランス。ここで外から住宅の空気感へと徐々に変化する。　Ⅱ）仕事場。前の壁一面に本が並び、執筆への意欲を高める。　Ⅲ）仮眠室。集中力が切れた時のため、天井の低い空間にベッドを設置している。　Ⅳ）奥の寝室棟へと接続するテラス。ここから書斎の内部が透けて見える。　Ⅴ）リビングルーム。奥の中庭をのぞむつくり。　Ⅵ）集中力が切れた際に場所を変えて執筆が出来るよう、居住棟にも仕事場を設ける。　Ⅶ）テラス。下階の洗面所からアクセスし、洗濯物を干す。　Ⅷ）居住棟エントランス。中庭を囲んで地面のレベルから上っていく構成。



① first floor plan S = 1:200



② second floor plan S = 1:200



③ third floor plan S = 1:200

living part
1.entrance
2.kitchen
3.dining room
4.corridor
5.storage
6.toilet
7.space for watching TV
8.bed room
9.washroom
10.gym
11.mini-workroom

library part
a.entrance
b.dining room and kitchen
c.toilet
d.work room
e.view space 1
f.book shelf
g.view space 2